

単元名：ねんどわたし

(造形あそびに分類される活動)

小学部高ブロック 図画工作科 学習指導案 1

単元目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性等
	<ul style="list-style-type: none"> ■土粘土の感触や特徴に気付く。 ■粘土の扱い方が分かる。 ■道具が使える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■やってみたいアイデアをもつ。 ■アイデアに合わせた活動をする。 ■自分で見直したり、他の人の助言からアクションをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分のやってみたいことに向かう。 ■自分の活動、友達の活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。

流れ・活動	支援
-------	----

導入(10分)
 ・図工のルールとキーワードを教室に貼る。
 ・土粘土で自由に遊ぶことを確認する。

・「図工のルール」を掲示することにより、失敗しても良いので自分のやりたいことに存分に取り組むことを目指す図工の雰囲気を意識できるようにする。
 ・粘土を扱う上でヒントになりそうな「おおきい」「やわらかい」「ほそい」等の言葉を壁面に貼り、活動中の参考になるようにする。

展開(75分)

活動

予想される活動

2 実際

○自分の手元に粘土を持ってきて、一人ていじる。

○粘土の塊を上から投げ下ろす。

○丸くして、投げる。

○細長くする。並べて文字をつくる。

○高く積み上げる。

○小さくちぎる。

○握りつぶす。

○穴を開ける。貫通させる。

○薄くする。そこに文字を書く。

○水と混ぜて柔らかくする。

○水に投げ込み跳ねるのを楽しむ。

○自分の肌に粘土を塗る。

○自分の知っているものに見立てて遊ぶ。

○粘土の上に乗る。足踏みする。

○ひびをこすって埋め、滑らかにする。

○道具を使う(切る、削る、型をとる)。

○粘土を持ち寄って大きなものを作る。

取り組みを見取るための共通認識

否定して止めない。すぐに支援せず、児童の意図や面白い点を言語化して返す。 うまくいかない時に、「どうして失敗したか」「次はどうするか」を児童と考え、やってみる。

ポイント(色・形、図工として)

感触	可塑性	制作物の特徴	道具を使う	好きで遊びに夢中	自分のアイデアをもって取り組む	友達の活動を見る	楽しかったことを伝える
----	-----	--------	-------	----------	-----------------	----------	-------------

○自分の手元に粘土を持ってきて、一人ていじる。

上段：児童の姿や予想 下段：支援案

J	K	L	M	N	O	P	Q	R
<p>静的</p> <p>感触(水)を好み、自分で楽しむ。教師と関わりが出てきた。粘土だけを扱う時間が最近増えてきた。</p>	<p>動的</p> <p>ゴジラを作りたいが、以前上手くいかなかった。あきらめて友達が提案することを一緒にやる機会が多い。</p>	<p>静的</p> <p>教師や友達の言葉を楽しんで見立て遊びをする。飽きると寝転ぶが、最近粘土の時間が増える。</p>	<p>動的</p> <p>人との関わりを好み、その手段として粘土を使う。一人でやりたがる場面と友達と関わりたがる場面がある。</p>	<p>静的</p> <p>人と関わらず、自分のやりたいことにどんどん取り組む。活動が一段落すると、友達の制作物を見る。</p>	<p>静的</p> <p>粘土への興味が薄かった。回数を重ね粘土で文字を作る、塊を使って制作をする等の様子が増えた。</p>	<p>静的(動的?)</p> <p>教師の促しに対し素直に取り組む。小さくちぎり、知っているものに見立てる。友達をまねる姿も見られる。</p>	<p>動的</p> <p>ダイナミックな活動を好む。始めは水に溶かしたが、粘土へも興味が出て、友達と制作したがる。</p>	<p>静的(動的)</p> <p>手を汚したくない、苦手。友達に誘われ付き合っていたが、徐々に自分の意思を話し、友達と一緒に取り組む。</p>
自分から粘土を扱う場面は大切に、友達の制作にも意識が向くように関わる。	やりたいと話していた内容を促す。挑戦する様子を見せ、参考となるようにする。	見立て遊びや友達の言葉を使って興味を喚起させ、活動が広がるよう関わる。	活動に集中している時は一人にし、友達との関わり場面では間に入って支援する。	活動中は言葉掛けをあまりしない。制作物を称賛するなどして友達との関わりを促す。	文字を用いた活動を肯定し、それ以外の活動を称賛して粘土の扱いに促す。	見立て遊びや友達のまね、自分の気持ちの表出を行った際に称賛し、促していく。	道具を提案したり、制作の様子を称賛したりして粘土の活動に意識が向くようにする。	やりたいことやアイデアを肯定し、苦手さを考えずどんどん挑戦できるように関わる。

授業の記録 上段：様子、ポイントについて 下段：教師の仕掛けと反応

授業時の児童の活動の記録をとる。毎時間とることで、記録が増えていく。活動の予測や目標が明確になっていく。

片付け

振り返り(5分)
 ・楽しかったことを発表する。

・児童の様子や発表した内容を補足して言語化し、分かりやすく伝え直すことで気持ちを共有できるようにする。

1 予測

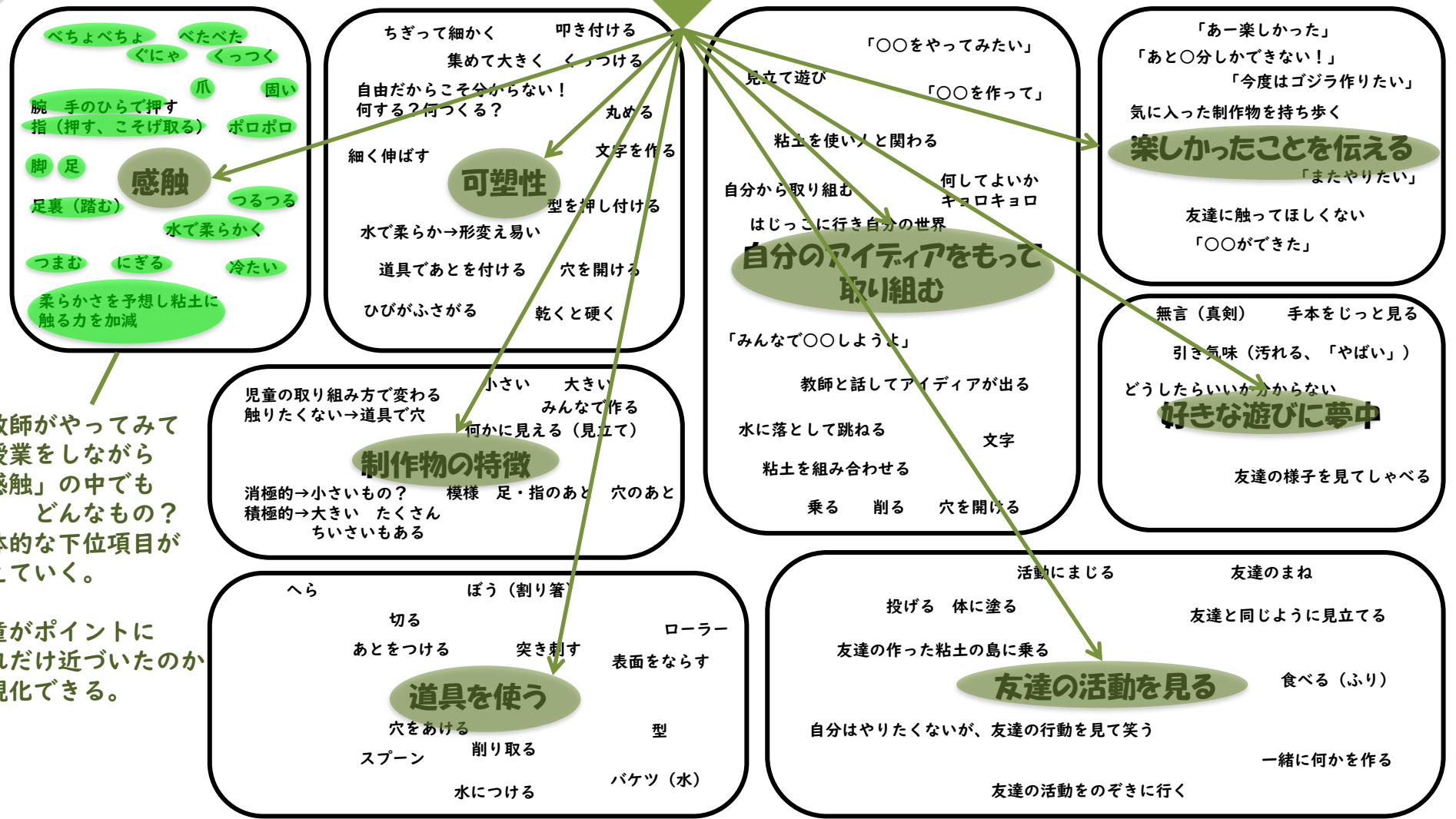
4 支援

3 目標設定

	知識及び技能	思考力 判断力 表現力	学びに向かう人間性等
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ■土粘土の感触や特徴に気付く。 ■粘土の扱い方が分かる。 ■道具が使える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■やってみてほしいアイデアをもつ。 ■アイデアに合わせた活動をする。 ■自分で見直したり、他の人の助言からアクションをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分のやってみてほしいことに向かう。 ■自分の活動、友達の活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。

ポイント(色・形、図工として)

単元目標から「色・形、図工として」のポイントを設定



①教師がやってみて
②授業をしながら
「感触」の中でも
どんなもの?
具体的な下位項目が
増えていく。

児童がポイントに
どれだけ近づいたのか
可視化できる。

「ねんどとわたし」授業の見方

研究対象児としたNさんについての活動記録(右表)と、これまで接近した授業のポイントから、
 ①本時のNさんの活動を予想し、 ②Nさんに対する教師の支援について記載しています。

単元目標	知識及び技能	思考力 判断力 表現力	学びに向かう人間性等
	■土粘土の 感触 や特徴に気付く。 ■粘土の扱い方が分かる。 ■ 道具 が使える。	■ やってみたいアイデア をもつ。 ■アイデアに合わせた活動をする。 ■自分で見直す、助言からアクションする。	■自分の やってみたいこと に向かう。 ■自分の活動、友達の活動の良さを見付ける。 ■楽しかった、工夫したなど自分なりに表現する。

授業日	N 活動記録	
11月16日	ちぎり直径3cm球/Jから粘土もらいドア付近で一人棒状→円をずらしうんち何作ってる?→コロコロうんち/くしが欲しい→ない、切り系渡す→違う様子	1回目
11月29日	大きな粘土に乗り足踏み平らに/爪で引っ掻き模様、自分から活動前回数道具を要求、今回許可→割りばしの側面押し付け模様	2
12月6日	自分の世界/テーブル使う/棒状→ドーナツ→教師に見せる集中で教師が声を掛けるべきか迷い、近くで粘土制作	3
12月11日	終了間際教師が余り粘土を直方体→教師が離れた後まねLのケーキ発言を聞き生クリームやメリークリスマスのプレートを作る	4
12月20日	道具の中からローラーを選び、粘土の塊に当て続ける/ひび割れがなくなるまで続け、「何を作っているの?」→「石」と答える	5
1月10日	ローラー使いきれいに整える/平べったい四角形粘土に球の粘土を乗せ眺める/時間が経つと粘土を崩し成型するところから始める	6
1月17日	教師が用意した立方体の塊をローラーで整える/平べったい円形粘土に親指を押し当てる/円形粘土を立方体粘土に乗せローラーで接着面を整える	7

こういう流れでこれまで学習に取り組んできたので...

ポイント(色・形・図工として)

※学習してほしいと考えていたポイントに、児童の活動が近付いた! →

腕 べちよべちよ べたべた
ぐにゃ くつつく

手のひらで押す 固い
指(押す、こそげ取る) ポロポロ つるつる

脚 足

爪 **感触** つまむにぎる

足裏(踏む) 水で柔らかく

柔らかさを予想し粘土に触る力を加減 冷たい

ちぎって細かく 叩き付ける
集めて大きく くつつける

自由だからこそ分らない!
何する?何つくる? 丸める

ひびがふさがる 文字を作る

細く伸ばす **可塑性**
型を押し付ける
水で柔らかく→形変え易い

道具であとを付ける 穴を開ける

乾くと硬く

「○○をやってみたい」
見立て遊び 「○○を作って」

粘土を使い人と関わる

自分から取り組む 何してよいか キョロキョロ

はじっこに行き自分の世界

自分のアイデアをもって取り組む
「みんなで○○しようよ」
教師と話してアイデアが出る

水に落として跳ねる 文字

乗る 削る 穴を開ける

粘土を組み合わせる

「あー楽しかった」
「今度はゴジラ作りたい」

気に入った制作物を持ち歩く

楽しかったことを伝える
「あと○分しかできない!」
「またやりたい」
友達に触ってほしくない
「○○ができた」

無言(真剣) 手本をじっと見る
どうしたらいいか分からない

好きな遊びに夢中
引き気味(汚れる、「やばい」)
友達の様子を見てしゃべる

児童の取り組み方で変わる みんなで作る
触りたくない→道具で穴 積極的→大きい たくさん
消極的→小さいもの? 小さいもある

制作物の特徴
何かに見える(見立て)

小さい 大きい 模様 足・指のあと 穴のあと

へら ぼう(割り箸) ローラー
切る 削り取る 穴をあける 表面をならす

道具を使う パケツ(水) スプーン

あとをつける 突き刺す 型

活動にまじる 友達のまね
投げる 体に塗る

友達と同じように見立てる

友達の作った粘土の島に乗る 食べる(ふり)

友達の活動を見る
自分はやりたくないが、友達の行動を見て笑う
一緒に何かを作る

友達の活動をのぞきに行く

T 元々絵を描くことが大好きで、自分の世界に入ってしまうけど、夢中になっているところはそのまま集中させてあげたいな。友達のやっていることにも興味が出てきたから、N君の作品を称賛しながら友達に紹介するなど、友達の作品を見る機会を作りたいな。

N さんの
自分のやりたいことがたくさんあるから、おもいっきりやりたいな!
友達が作ったケーキを自分でもやってみたんだ。友達の作った島にもこっそり乗ってみたい...友達の作っているものもちょっと気になるなあ。